

古文書ワークショップ「昔のひらがな」を書いてみよう！

現在では使われなくなった形の「ひらがな」である変体仮名について学び、実際に筆ペンで書いてしおりを作ります。

🕒 9月16日(土) 13:30~15:00 所 史跡草津宿本陣 対 小学生以上 定 10人(先着順)

¥ 100円(入館料別途要、小・中学生は入館料無料)

他「草津宿みちくさラボ※」対象イベントです

※小学生対象の草津の歴史や文化を学べる体験活動

📅 9月2日(土)~、電話かファクスで

📞 申・問 史跡草津宿本陣(草津一) ☎・FAX 561-6636



歴史ギャラリー

芦浦遺跡出土の弥生土器—出土状況から分かること—

No.190

今回紹介するのは、令和4年度の調査で芦浦遺跡(芦浦町)から出土した「弥生土器」です。芦浦遺跡は草津市の北部に位置し、これまでの調査で縄文時代から中世にかけての集落跡や古墳が確認されています。今回の発掘調査では、弥生時代の溝と、溝の中から弥生土器の破片を多く確認することができました。

発掘調査において、溝や流路の跡から出土した土器の多くは、破片が多く、表面が摩耗しているため、どのような形の土器か判断が難しい場合があります。しかし、今回出土した弥生土器は、上から押しつぶされたような形で見つかり、口縁部(フチ)の口径が11・4cmで、4条(本)の線が施され、表面には製作途中で使用される調整の道具の跡などがよく残っていました。

また、周辺にも表面の模様が残された土器の破片が多く出土しました。これらのことから、この土器は上流から流れてきたものではなく、この付近で壊れてしまったものと思われる、これらの土器を使用するような集落が近いところにあったことが分かります。



▲弥生土器出土状況

このように、発掘調査で出土する土器は完形に近いほど良い資料というだけでなく、出土状況や、土器表面の摩耗の程度をよく観察することで、発掘調査地周辺の過去の様子を推測することができそうです。こうした発見の積み重ねで、当時の周辺の状況が明らかになっていきます。皆さんも土器などを見る機会があれば、当時の人々の生活を想像してみてくださいはいかがでしょうか。

📞 問 歴史文化財課(6階) ☎561-2429、FAX 561-2488

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふえむ草津 (FM78.5MHz) 「声の広報」



スマートフォン用アプリ

- マチイロ
- SideBooks(ちいき本棚)

市公式ソーシャルメディア



草津市メール配信サービス

市の情報をメールで配信するサービス



くさつチャンネル

さまざまな動画や、びわ湖放送(BBC)で放送されている草津スケッチもこちらから配信!



市の花
アオバナ



市の木
キンモクセイ

7月31日現在(対前月比)

- 人口139,373人(+50)
- 世帯数63,636世帯(+35)
- 男69,910人(+20)
- 女69,463人(+30)

国スポ開催まであと

758日

わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ 2025

障スポ開催まであと

785日



開催まで
カウント
ダウン!

9月1日(金)時点